

だけど、できるレクリエーションがあります！

2022
03月号
no.600

支える人を支える 京都の 福祉

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



●今月の「ふくしびと」は河合謙太さん ▼7ページ

●コロナ特例貸付とコロナ禍で顕在化した

地域生活課題の解決に向けて ▼2ページ

もえくさ



T.S

ある講演を聞いて、中学生の時によく読んだ夏目漱石の本を久しぶりに手にした。当時は「こころ」「三四郎」「門」「虞美人草」などを読み漁った。

それから四十年。四十九歳で生涯を閉じた漱石に比べると私は長く生きている。しかし古典落語の「死神」ではないが、現代の平均寿命をロウソクにたとえると三分の二以上が燃えて短くなった。

漱石は講演録「私の個人主義」のなかで、人は他人の個性を尊重しつつ自分が信じる道を進むことで個性が発展し幸福と安心をもたらすという。

学生時代に法律を学んだ私は、日本国憲法の個人の尊厳を根本原理とする自由主義、民主主義として平和主義の理念や哲学を自身の思想信条として三十年間福祉の仕事に従事してきた。

地域共生社会は「人のつながりの回復」がテーマだがその原点は「個の尊重」にある。憲法の理念をこよなく大切に思う私としては、現代社会の変化は激しくとも、漱石のいう「個性が発展」する地域づくりに近づきたい。

コロナ特例貸付と コロナ禍で顕在化した 地域生活課題の解決に向けて

新型コロナウイルス感染症により生活が困難となった方へ向けた生活福祉資金特例貸付。令和2年3月25日の申込受付開始から、約2年が経ちました。長期化する新型コロナウイルス感染症の影響のもと、特例貸付をとって見えてきた課題に対して、地域での新しい取り組みも生まれてきています。

申請件数

110,790件

(緊急小口資金 37,313件・総合支援資金 73,477件)

(令和2年3月～令和4年1月末現在)

令和4年1月末時点で、特例貸付の申請件数は、緊急小口資金と総合支援資金(延長および再貸付を含む)合わせて11万件を超え、申請額は460億円に上ります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の生活福祉資金貸付の約67年分に相当します。(コロナ禍前の令和元年度の申請件数は1,658件)

特例貸付の今 〜厳しい状況は今なお続く〜

飲食店の経営が立ち行かなくなったり、非正規雇用で働いていたところ勤務日数が突然減少したり、職を失った方、急な休校により、仕事を休まざるを得なくなったひとり親世帯の方。膨大な申請からは、非常に多くの方の生活が、新型コロナウイルス感染症の影響で一変してしまっただけでなく、20代や70代以上の方など、これまで生活福祉資金の利用が少なかった世代の方からの申請も多くあります。外国籍の中長期滞在者等の方は、生活保護等の制度の対象にならないことが多いのですが、特例貸付により生活の一部を支えることができたのではないかと考えています。

現在、申請件数は落ち着きつつありますが、生活支援を必要とする方が少なくなってきたということでは

ありません。繰り返されるコロナの感染拡大により、今もなお、多くの方が生活に困っておられます。本会のコールセンターにも、「もつと貸付を利用できないか」という問い合わせが多寄せられており、厳しい状況が続いています。

特例といえども、あくまで「貸付」です。住民税非課税世帯など、要件を満たす方への免除制度はありませんが、多くの方は返済が必要になります。

一方で、「コロナが収まれば、ちやんと返していけると思っただけで、この状態でどうやって返せばいいかわからない」「コロナで仕事を失った。今はアルバイト収入で、生活するのが精いっぱい」といった声も少なくありません。

生活福祉資金そして 地域福祉のこれから

生活福祉資金は、生活の立て直し

何かできないかという 職員の思いから

「特例貸付の相談の様子や相談実績は聞いていたので、何かできないかという思いがありました」

亀岡市社協の地域支援課の藤田さんは、当時を振り返ります。地域支援課の山本課長は、夏頃から課内会議を繰り返す中で、相談業務において、経済的な事情で生活用品の購入が難しいという相談が多く、何かできないかと模索をしていました。

そのような中、12月に京都府の「地域交響プロジェクト交付金(府民に寄り添った地域活動緊急支援事業)」に応募して、この交付金を活用して新型コロナウイルスの影響で生活に困窮している世帯に対し、年末年始を安心して過ごすことができるよう、食糧や生活物資を配布する取り組みを実施しました。

12月15日から22日に受取希望者を募ると同時に寄付者を募集。募集開始から3日で41世帯から受取希望があり、寄付についても取り組みに賛同した多くの個人・団体からいただきました。また、仕分け作業や当日の配布ボランティアに中学生や大学生を含む31名の方から応募がありました。中には、特例貸付を利用した方からもボランティアとして協力したい、との申し出もありました。特例貸付借入相談時には疲弊をされていましたが、ボランティアとして参加いただく中で、たくさん笑顔も見られたとのこと。

また当日は生活に関する相談会も



「以前は短期でパートをしていたが、コロナで仕事が無くなった。

その後仕事が決まらない。母の年金収入のみで生活が厳しい」

年末の12月26日(日)に亀岡市社協が実施したフードパントリー事業

“ふくかめスマイルフードプロジェクト”を利用された方の言葉です。

特例貸付を実施する中で広がった“ふくかめスマイルフードプロジェクト”と“生活福祉資金(教育支援資金)説明会”の取り組みについてレポートします。

※フードパントリー：食糧等の寄付を募り、必要な方に無料で配布する拠点活動

実施。計11件の相談があり、経済的な厳しさや孤立感を感じているなど、相談者の生活実態を把握し、制度に繋げることができたと伺いました。

広がりを作ることに 社協の取り組み

地域支援課の笠井さんは「生活に困っている方に僕らができることをして、より良い生活につながったという実感がある」とプロジェクトを振り返ります。物資の配布だけでなく、相談とフォロー、制度につながるような取り組みです。

「ふくかめスマイルフードプロジェクト」は、事業としてはフードパントリーになりますが、取り組みの中で受取希望者や寄付者、ボランティアのみならず、活動を知った地域の方にも温かい気持ちの広がりがあったのではないのでしょうか。

亀岡市社協の木村会長は、「これぞ社協の取り組み」と述べ、職員を労いました。

相談で把握した実態から 取り組みを創るということ

特例貸付から広がった取り組みとして、市内の高校・中学校の先生を対象に10月には「生活福祉資金(教育支援資金)説明会」も実施しました。

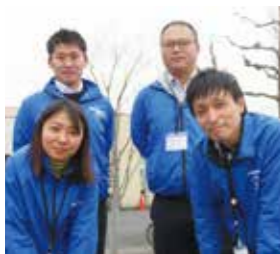
説明会を担当した地域支援課の森さんは、特例貸付を実施する中で、「受験生がいて学費の支払いが難しいという方や、生活に厳しさを感じ

ておられる方がたくさんいた」とことを知り、「同じ状況の方が他にもたくさんいる」と思い、コロナの影響で進学を断念しないよう制度の周知が必要」と感じ、取り組みの実施に踏み切りました。

教育委員会やスクールソーシャルワーカーと連携し、説明会を実施することで、まず学校に対して制度の周知を行いました。その上で学校から保護者にチラシを配布していただくことで、「チラシを見た」と相談の連絡をいただいたとのこと。

亀岡市社協が取り組んだ、「ふくかめスマイルフードプロジェクト」と「生活福祉資金(教育支援資金)説明会」は、特例貸付の相談支援から把握した実態をもとに広がった取り組みです。

社協は相談支援で把握した実態を、いかに地域で考え、支え合いの福祉のまちづくりを広げていくことができるかが問われています。そのためにも、専門職として丁寧な相談支援を行うことと併せて、生活の素地となる地域を、地域に住まう方と、当事者・生活者の目線で、福祉の土壌を耕し続ける弛まぬ取り組みも同時に必要になります。



(写真 上段左から亀岡市社協の笠井さん、藤田さん、下段左から森さん、山本課長)

初級編 チェアサッカー

足を使ったレクリエーション

感染症の対策を講じつつ脚部の筋力アップを図る、足を活用したレクリエーション。イスをゴールに見立て、足でボールを送り、皆で協力してゴールに入れます。丸いボールではなくラグビーボールのような変形したボールを使うと、変則的な動きとなり楽しいですよ。

中級編 協調グーパーゲーム

オンラインを活用したレクリエーション

リズムに合わせてグーパー運動をし、「あなたがたどこさ〜」の歌で、「さ」が来ると両手を画面の端に持ってきて、他の利用者と手を合わせているようにするなど、皆で協調して動くレクリエーションです。対面で触れることを画面に置き換えたものです。

上級編 ARでゲーム

ICTを使ったレクリエーション

AR(拡張現実)を使うと、ゲーム感覚で運動できる健康体操も提供できます。画面上にバーチャル映像が出てきて、それに合わせて上下肢の関節を動かすことで関節の可動域や筋力アップが図れます。楽しい運動体験であたかも心も健康になります。



こんな研修を受けたい！
研修センターではみなさまからのご意見をお待ちしています

研修センターでは、「支える人を支える」時代のニーズに合わせた研修を提案しています。研修内容によっては、今回のように、より専門的課題意識やつながりをもった関連機関と協働し研修を開催することもあります。研修は、一般的なコミュニケーションから、福祉の専門技術や福祉職の心得など多岐にわたります。こんな研修してほしい！といった要望をぜひお聞かせください。

■電話：075-252-6296 ■FAX：075-252-6312

こんな研修があったらいいな
ご意見箱



\\ コロナ禍で人に会えない \\

だけど、できるレクリエーションがあります！

外出自粛やソーシャルディスタンスが求められる中で、今まで行っていた集まりの場やレクリエーション活動が難しくなっています。高齢者に元気でいきいきと過ごしてもらうためには、「感染症が収まるまで〇〇できない・しない」ではなく、「何ができる」のかを考えていく必要があります。そこで、京都府福祉人材・研修センターでは、一般社団法人 京都府老人福祉施設協議会と京都府地域包括・在宅介護支援センター協議会と共催でフレイル予防について学んだうえで、事業所の実情に合わせて実施できるレクリエーションや場づくりを考える研修を開催いたしました。



講座の内容について

フレイルとは、加齢により体やこころが弱った状態で、介護を必要とする少し手前の状態のことです。その原因は、身体的、精神的、社会的なものなど様々です。

コロナ禍では「他者との接触を避ける」→「心が疲れる」、「外出を自粛する」→「運動の機会が減る」など、フレイル予防にとって負のスパイラルになっています。

また感染予防対策のため、外出できない、ボランティアに来てもらえないこと等が事業所にとって大きな課題と言えるでしょう。その課題に対して「何ができるか」「どうしたら解決できるか」という発想が大切です。そこで、いくつかの案(左記3案含む)と、①加齢に伴って萎縮しやすい筋肉を動かすこと、②心を元気づけるためにコミュニケーションを取ることを意識し、これからのレクリエーションについて考えるグループワークを行いました。



なかひ あきら
中井 聖氏

大阪電気通信大学医療健康科学部健康スポーツ科学科 教授
京都府レクリエーション協会 理事兼事務局次長

新たなスポーツ・レクリエーションの開発や、その心身や社会に対する効果の検証などを行っている。最近ではオンラインでのアイスブレイキング・ゲームの開発に取り組んでおり、その実施方法や留意点については、ガイドブック『オンライン・アイスブレイキング・ゲーム はじめの一歩』にまとめられている。

受講者の声 講座を受けてこんなアイデアが湧いてきた！

悩み 感染リスクを考えると外出レクリエーションが行えない。

アイデア GoogleEarthを使って足踏みをしながらか旅行気分を味わってもらう。

先生から GoogleEarthを使うと、世界中どこにでも行くことができます。季節を重視したり、回想法を取り入れるために自分の故郷を紹介したりと、テーマの設定が大切になってきます。また、4DX(体感型アトラクションシアター)のように、音や香りを演出しても楽しいです。

悩み 今まで来てもらっていた外部からのボランティアさんの受け入れが中止したままで、再開のメドが立てられない。

アイデア 利用者さんは施設にいたまま、ZoomやLINE等のテレビ電話をつなぎ、ボランティアさんに買い物に行ってもらうことで、外部とのつながりをつくる。利用者さんには、ボランティアさんが歩いている間、その場で足踏みしてもらう。

先生から 足踏みするのは室内の床だけになりがちです。人工芝や庭で行うだけでも感触が変わります。体験の共有をすることはコミュニケーションとなりいいですね。また、ご本人が手を伸ばしたらボランティアさんが物を取るなど、動きを連動してみても面白いです。外部とのつながりという視点では、他にも身近な団体のコンサートや演劇をオンラインで鑑賞するというアイデアも出てきました。団体とのつながり作りは、社協が得意としていることだと思います。ぜひ団体同士で協力し合ってほしいです。



料理を通じて
利用者さんの笑顔を引き出していきたい

(福)物集女福祉会サニーリッジ 給食事業課課長 ● **河合 謙太さん**

◆この職場を選んだ決め手は？

給食調理に興味があったんです。また直営で料理を提供しているところも魅力的でした。

◆職場のいいところ

雰囲気がいいので、困ったことも相談しやすいです。また早くから責任のある仕事を任せられるので、やりがいを感じています。

◆休日の過ごし方

野球観戦。コロナ前はよく球場まで足を運んでいました。ちなみにオリックスファンです。

【施設名】(福)物集女福祉会 サニーリッジ
【場所】京都府向日市物集女町池ノ裏 18-1
【URL】http://mozumefukushikai.kyoto/
【TEL】075-921-0032 【FAX】075-921-0039

元イタリア料理のレストランでシェフをしていた河合謙太さん。充実した日々を過ごしながらも、作り手として客と接する機会が少なく、物足りなさも感じていました。そんな中、「人と身近に携わることができるかな」と(福)物集女福祉会に入職。7年目を迎えた今、給食事業課の課長として、ケアハウス「サニーリッジ」の厨房を任されています。

調理するメニューは和食、洋食、中華と実にさまざま。入居者によつては食べやすい形態にするなど、できる限り要望に応えています。「対面で料理を提供しているの



25市町村31会場から500名を超える参加!!
きょうと地域福祉活動実践交流会を開催、新しい創造から考える交流のカタチ。

令和3年11月30日(火)に、宇治市において「第9回きょうと地域福祉活動実践交流会」を開催しました。(京都府内25市町村社会福祉協議会連合会と共催)京都府内25市町村社会福祉協議会連合会と共催 オンラインで繋ぐとともに、会場での参加が難しい方はストリーミング配信で参加ができる仕組みを整えるなど、コロナ禍での新しい交流づくりへのチャレンジでもありました。

配信のストリーミング



き

きょうと地域福祉活動実践交流会(以下「実践交流会」とします)は、小地域福祉活動の実践者や社会福祉協議会関係者が地域の福祉課題や日頃の地域福祉活動をテーマに交流することにより、さまざまな気づきをもとに参加者が力量を高め、小地域福祉活動が推進されることを目的に平成24年度から開催しています。

東京都立大学室田信一准教授から、大会テーマでもある「地域づくりの『いろは』から想像する新しいつながりの創造」と題した講演をいただき、宇治市と城陽市、久御山町における「新しいつながり」を創造するための実践報告をいただきました。

はじめに、城陽市深谷校区社会福祉協議会から、コロナ禍でも地域に開かれた交流の場として、「人と話したい」というたくさんの方の声を支えられているサロン活動の報告をいただきました。

次いで、久御山町市田地域福祉会から、外国人技能実習生が地域との交流を希望し、サロン活動に参加されていた実践を通じて、地域における多様性とその可能性について報告をいただきました。

最後に、宇治市より、平成29年に学区福祉委員会を解散し、地域懇談会から立ち上がったコラボプラザ「ふらっとこはた」から、「やってみよう」



から始まり、ワークショップやウォークラリー、居場所づくりへと広がった取り組みについての報告をいただきました。意見交換の時間では、実践報告を踏まえて各サテライト会場でもワークを実施しました。その後、室田先生と各会場とのやり取りを通して、コロナ禍においても日常生活における地域での会話等のつながりの大切さや、地域で協議を重ねながら活動を行うことで、地域活動が展開していくことを確認しました。

コロナ禍でも開催できる新しい交流のカタチを含め、実践報告で語られた多様な人々のつながりや、地域の取り組みの背景にある活動者の思いは、次年度以降の実践交流会に引き継がれていきます。

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

ご寄贈・ご寄附・助成金ありがとうございました。
ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

ご寄贈・ご寄附
ありがとうございました

寄贈 令和4年1月12日「関西遊技機商業協同組合」様より、車いす7台 クッション7枚の寄贈があり、本会での調整の結果、京都市・城陽市・八幡市・京田辺市・和束町の各社会福祉協議会宛に届けられました。

寄附 令和3年12月9日 中井 敏宏 様 10,000円
令和4年2月1日 小畑 英明 様 30,000円



FUKUSHI 就職フェアKYOTO

介護・福祉の仕事 合同就職説明会を実施します。京都府内全域対象

予約不要 入場無料 随時入場可 服装自由

日程 3月6日(日)
時間 13:00~16:30 (受付12:30~)
会場 みやこめッセ 3階第3展示場
(地下鉄「東山」徒歩約8分/バス5、100系統「岡崎公園・美術館・平安神宮前」下車)
対象者 学生(全学部・全学年大歓迎)・一般求職者(未経験者も大歓迎)
出展 約120法人出展(予定)
問合せ先 京都府福祉人材・研修センター
TEL: 075-252-6297 http://fukujob.kyoshakyo.or.jp/

Twitter
相談員のつぶやきは
こちら



★特設サイト
はこちら



※新型コロナウイルス感染症への予防対策を実施します。体温測定、マスク着用、手消毒、社会的距離の確保、ブースでのパーティション設置

京都府保育園 就職説明会

京都府内全域の保育園・認定こども園が参加されます。保育の仕事に関心のある学生の方はもちろん、一般の方も大歓迎!履歴書は不要、服装も自由!是非、ご参加ください!

日程 3月13日(日)
時間 13:00~16:00 (受付12:30~)
会場 京都産業会館 2階「中南室」
(市営地下鉄「四条」・阪急「烏丸」から徒歩3分)
対象者 保育園・認定こども園に就職を希望する一般・学生等の方
出展 約40法人(予定)

参加方法 ①会場で実際に法人に会う
【予約不要】直接お越しください
②オンラインで参加する **3月4日(金)締切**
【要事前予約】公式サイトからお申し込みください→

問合せ先 京都府保育人材マッチング支援センター
TEL: 075-252-6333 http://fukujob.kyoshakyo.or.jp/hoiku/



●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協 検索



本紙は、共同募金の
配分金によって
つくられています。

©中央共同募金会

令和3年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ぶくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通所時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
補基本(A型)	定員	
	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
付見舞費用(B型)	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
	基本補償(A型) 保険料	+
		【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
引受幹事(損害保険会社) **損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課**
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)